

ふりがな 氏名	あかぎ かずしげ 赤木 和重				
就こうと する職名	教授	所属	人間発達環境学研究科 人間発達専攻心理系教育研究分野	専任・兼任 の別	専任
略 歴					
学 歴	年月	事 項			
	1994年3月	奈良県 私立 東大寺学園高等学校 卒業			
	1994年4月	京都大学 教育学部 入学			
	1998年3月	京都大学 教育学部 教育学科 卒業			
	1998年4月	京都大学 教育学部 科目等履修生 (～1999年3月)			
	1999年4月	滋賀大学 大学院 教育学研究科 修士課程 入学			
	2001年3月	滋賀大学 大学院 教育学研究科 修士課程 修了			
	2001年4月	滋賀大学 大学院 教育学研究科 科目等履修生 (～2002年3月)			
	2002年4月	神戸大学 大学院 総合人間科学研究科 博士後期課程 入学			
2005年3月	神戸大学 大学院 総合人間科学研究科 博士後期課程 修了				
職 歴	年月	事 項			
	2004年4月	日本学術振興会 特別研究員DC2(～2005年3月)			
	2005年4月	三重大学 教育学部 専任講師(～2007年3月)			
	2007年4月	三重大学 教育学部 准教授(～2010年9月)			
	2010年10月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授(～2023年6月)			
2015年3月	アメリカ・シラキュース大学 教育学部 客員研究員(～2016年3月)				
学 位	年月	事 項			
	2005年3月	博士(学術)(神戸大学)			

著書及び学術論文等目録

【研究活動】

I. 著書

<単著>

1. アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで ひとなる書房 2017. 1
220p.
2. 目からウロコ! 驚愕と共感の自閉症スペクトラム入門 全障研出版部 2018. 8
143p.
3. 子育てのノロイをほぐしましょう: 発達障害の子どもに学ぶ 日本評論社 2021. 2
216p.

<編著・共著>

1. ホントのねがいをつかむ: 自閉症児を育む教育実践 全障研出版部 2009. 5
(赤木和重・佐藤比呂二) pp.3-6, pp.85-131
「はじめに」「障害特性に応じつつ障害特性をこえていく教育へ: 自閉症理解と教育実践」
2. 見方が変われば願いが見える: 保育・障害者作業所の実践を拓く クリエイツかもがわ 2009. 11
(赤木和重・社会福祉法人コスモス 編) pp.33-34, pp.44-46, pp.59-61, pp.84-86, pp.102-103, pp.128-130, pp.144-145, pp.161-162, pp.178-179, pp.192-193, pp.195-212
「働くことの意味を広く、深くつかまえよう」「安全な実践をめざすことは、豊かな実践をつくること」「食は心身を豊かにする ただし、施設内に給食職員がいてこそ実現される」「豊かな内面は、豊かな生活から生まれる」「仲間どうしのつながりは、『想定外』の力をひきだす」「『しんどさ』を出しあえるとき、マイナスはきっとプラスになる」「配慮あるあたりまえの生活が、重い障害のある仲間の命を輝かせる」「違いを意識しつつ、一緒につながる 健聴の仲間とろう重複の仲間が共にいる実践」「『気になる子ども』の保護者とのつながりが、保育をきりひらく」「親と共に揺れながら、親の力をひきだす」「見方が変われば願いが見える 実践をすすめる基本的視点」
3. キミヤーズの教材・教具: 知的好奇心を引き出す クリエイツかもがわ 2011. 1
(赤木和重・村上公也 編) pp.2-3, pp.89-136, pp.137-179
「はじめに」「教材・教具を語る」「村上実践を読み解く」
4. 0123 発達と保育: 年齢から読み解く子どもの世界 ミネルヴァ書房 2011. 3
(松本博雄・常田美穂・川田 学・赤木和重) pp.121-157
「ボクはボクである でもけっこうテキトウ」

5. 「気になる子」と言わない保育:こんなときどうする? 考え方 ひとつなる書房 2013. 8
と手立て pp.11-99の一部, pp.102-124, pp.152-
(赤木和重・岡村由紀子 編) 153
「発達の視点から『気になる子』を理解する」「あとがき」
6. どの子にもあ〜楽しかった!の毎日を:発達の視点と保育 ひとつなる書房 2017. 8
の手立てをむすぶ pp.8-22
(赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美)
「発達を学ぶ『保育を楽しく!』を確信するために」
7. 実践,楽しんでますか?:発達保障からみた障害児者のラ クリエイツかもがわ 2017. 8
イフステージ pp.143-147, pp.150-176
(木下孝司・川地亜弥子・赤木和重・河南勝・全国障害者問題研究
会兵庫支部)
「実践 青年・成人期コメント」「実践を読み解く 知的障害や自閉症
のある青年・成人期の発達理解」
8. PBL 事例シナリオ教育で教師を育てる:教育的事象の深 三恵社 2018. 9
い理解をめざした対話的教育方法 pp.41-47, pp.128-133
(赤木和重・山田康彦・森脇健夫・根津知佳子・中西康雅・大日方真
史・守山紗弥加・前原裕樹・大西宏明 編)
「対話的事例シナリオの作成と授業過程」「インクルーシブ教育を考
える」
9. ユーモア的即興から生まれる表現の創発:発達障害・新喜 クリエイツかもがわ 2019. 1
劇・ノリツコミ pp.3-13, pp.159-186, pp.187-191
(赤木和重 編)
「はじめに」「ユーモアと即興が生み出す障害児の創造的発達:特
別支援教育の新しいかたち」「あとがき『にもかかわらず,笑う』」
10. アメリカの教室に入ってみた:貧困地区の公立学校から超 ひとつなる書房 2021. 5
インクルーシブ教育まで(DVD 付特別版) pp.2-7, pp.15-87, pp.89-208, pp.209-
(赤木和重 編) 213
「はじめに」「貧困地区の公立学校」「インクルーシブ教育の異なるか
たち」「おわりに」
11. 友だちのこまったがわかる絵本:みんなちがってみんない 金の星社 2022. 9
い
(WILL 子ども知育研究所 編・著 赤木和重 監修)

<分担執筆>

1. 思春期の自己形成 ゆまに書房 2006. 10
(都筑学 編) pp.235-259

「思春期をむかえた発達障害児の自己の発達と障害」

2. 発達障害のある子どもの自己を育てる:内面世界の成長
を支える教育・支援 ナカニシヤ出版 2007. 3
pp.28-42
(田中道治・都筑学・別府哲・小島道生 編)
「知的障害のある自閉症児・者の自己の発達と支援」
3. 卒論・修論をはじめのための心理学理論ガイドブック ナカニシヤ出版 2007. 4
(夏堀睦・加藤弘通 編) pp.70-80, 123-132
「極微の変化に発達の可能性をみる:田中昌人『人間発達の科学』」
「発達,障害,進化が交差するものとしての自閉症:パロン=コーエン
『自閉症とマインドブラインドネス』」
4. 障害者の人権と発達 全障研出版部 2007. 8
(荒川智・越野和之 編) pp.130-141
「自閉症研究の論点:発達研究・療育論の視点から」
5. やさしい発達心理学 ナカニシヤ出版 2008. 4
(都筑学 編) pp.232-246
「違うけど同じ自己:高機能自閉症児の思春期」
6. 資料でわかる認知発達心理学入門 ひとつなる書房 2008. 5
(加藤義信 編) pp.44-58
「乳児の意図理解の発達」
7. 発達障害のある子どもがのびる!かわる!:自己決定力 明治図書 2008. 11
を育てる教育・支援 pp.76-82
(小島道生・石橋由紀子 編)
「知的障害のある自閉症児:『絵カードから一つ選ぶ』支援のその先
を」
8. 教育と保育のための発達診断 全障研出版部 2009. 8
(白石正久・白石恵理子 編) pp.83-97
「自閉症の発達の理解と発達診断:発達の1歳半頃に焦点をあ
てて」
9. 「自尊心」を大切にしたい高機能自閉症児の理解と支援 有斐閣 2010. 6
(別府哲・小島道生編) pp.3-24, pp.53-78
「高機能自閉症の基礎理解:まずは知ることから」 「認知の発達と内
面世界」
10. 認知心理学 有斐閣 2010. 6
(箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 編) p.375
「教示行為の発達」

- | | | |
|--|---------------------------------------|-----------------|
| <p>11. ひとつ上をいく卒論・修論を書くための心理学理論ガイドブック
(山本 睦・加藤弘通 編)
『『抵抗』が身体・知性・意志をわがものにする』『自閉症の発見を導いた子どもの見方』</p> | <p>ナカニシヤ出版
pp.13-24, pp.36-46</p> | <p>2011. 8</p> |
| <p>12. 子育て支援ハンドブック
(日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医会・日本小児科連絡協議会ワーキンググループ 編)
「社会性の発達の評価」</p> | <p>日本小児医事出版社
pp.334-339</p> | <p>2011. 11</p> |
| <p>13. 他者とかがわる心の発達心理学:子どもの社会性はどのように育つか
(清水由紀・林創 編)
「教える行動の発達と障害」</p> | <p>金子書房
pp.147-164</p> | <p>2012. 3</p> |
| <p>14. 中学・高校教師になるための教育心理学(第3版)
(心理科学研究会 編)
「障害のある生徒の発達」「障害のある子どもを教える」</p> | <p>有斐閣
pp.54-63, pp.140-147</p> | <p>2012. 4</p> |
| <p>15. 子どもの「心の声」に寄り添う支援
(金子直由 編)
「解説 本書を深く読む:『心の声』をめぐって」</p> | <p>クリエイツかもがわ
pp.151-155</p> | <p>2012. 8</p> |
| <p>16. 障害のある子どもの教育目標・教育評価:重症児を中心に
(三木裕和・越野和之・障害児教育の教育目標教育評価研究会 編)
「心理学からみた特別支援教育におけるエビデンス」</p> | <p>クリエイツかもがわ
pp.54-69</p> | <p>2014. 8</p> |
| <p>17. 「心の理論」から学ぶ発達の基礎:教育・保育・自閉症理解への道
(子安増生 編)
『『心の理論』と教示行為:子どもを教えるのではなく子どもが教える』</p> | <p>ミネルヴァ書房
pp.119-130</p> | <p>2016. 3</p> |
| <p>18. 心の理論:第2世代の研究へ
(子安増生・郷式徹 編)
『『心の理論』と教示行為』</p> | <p>新曜社
pp.105-117</p> | <p>2016. 3</p> |
| <p>19. 人間発達研究の創出と展開
(中村隆一・渡部昭男 編)
「授業研究と田中昌人」</p> | <p>群青社
pp.158-159</p> | <p>2016. 7</p> |

- | | | |
|--|--------------------------|----------|
| 20. 教職教養講座 第9巻 発達と学習
(子安増生・明和政子 編)
「発達・学習の障害と支援」 | 協同出版
pp.137-155 | 2017.12 |
| 21. 教師として考えつづけるための教育心理学:多角的な視点から学校の現実を考える
(大久保智生・牧郁子 編)
「発達障害」(赤木和重・古村真帆) | ナカニシヤ出版
pp.72-76 | 2018. 12 |
| 22. 遊び・育ち・経験:子どもの世界を守る(シリーズ子どもの貧困2)
(小西祐馬・川田 学・松本伊智朗 編)
「遊びと遊び心の剥奪:障害と貧困が重なるところで」 | 明石書店
pp.97-124 | 2019. 5 |
| 23. 教育学年報11:教育研究の新章
(下司 晶・丸山英樹・青木栄一 編)
「発達研究:教育学における発達論の衰退のさなかで」 | 世織書房
pp.161-183 | 2019. 8 |
| 24. 自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価2
(三木裕和・越野和之・障害児教育の教育目標・教育評価研究会 編)
「強度行動障害のある人に対する教育実践の現状と展望」 | クリエイツかもがわ
pp.36-49 | 2019. 8 |
| 25. 新・育ちあう乳幼児心理学
(心理科学研究会 編)
「どの子にも豊かな毎日と発達を」 | 有斐閣
pp.228-248 | 2019. 12 |
| 26. 学びをめぐる多様性と授業・学校づくり
(宇野宏幸・一般社団法人LD学会 第29回大会実行委員会 編)
「アメリカの小さな学校から考えるインクルーシブ教育」 | 金子書房
pp.128-139 | 2020. 9 |
| 27. 中学・高校教師になるための教育心理学 第4版
(心理科学研究会 編)
「発達障害のある生徒の発達」「障害のある生徒を教える」 | 有斐閣
pp.56-63, 146-152 | 2020. 9 |
| 28. 流行に踊る日本の教育
(石井英真 編)
「インクルーシブ教育:「みんなちがって,みんないい」の陰で」 | 東洋館出版社
pp.121-143 | 2021. 1 |
| 29. 地域と協働する学校:中学校の実践から読み解く思春期の子どもと地域とのかかわり
(時岡晴美・大久保智生・岡田涼・平田俊治 編)
「生徒を変えるのではなく,関係を変える:人間の発達の動きだしについて」
※2021年度 日本コミュニティ心理学会「出版賞」を受賞 | 福村出版
pp.168-175 | 2021. 4 |

- | | | |
|---|--------------------|--------|
| 30. 応用心理学ハンドブック
(応用心理学ハンドブック編集委員会 編)
「発達障害の理解と支援:自閉症スペクトラム障害を中心に」
(赤木和重・呉文慧) | 福村出版
pp.252-253 | 2022.9 |
| 31. シリーズ学級経営
(田中耕治 監修)
「竹沢清『子どもの真実に出会うとき』全障研出版部 について」
(呉文慧・赤木和重) | ミネルヴァ書房
ページ数未定 | 印刷中 |

II. 学術論文

<学位論文>

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|---------|
| 1. 重度知的障害のある青年期自閉症者における自己発達と自他関係の構造 | 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士論文
pp.1-123 | 2005. 3 |
|-------------------------------------|----------------------------------|---------|

<査読付論文>

- | | | |
|--|---|----------|
| 1. 青年期自閉症者における鏡像自己認知:健常幼児との比較を通して | 発達心理学研究14
pp.149-160 | 2003. 8 |
| 2. 自己鏡像認知研究の展望:健常児,障害児を対象とした発達精神病理学的観点からの考察 | 人間科学研究(神戸大学発達科学部人間科学研究センター)11
pp.51-62 | 2003. 11 |
| 3. 1歳児は教えることができるか:他者の問題解決困難場面における積極的教示行為の生起
(発達心理学会論文賞受賞) | 発達心理学研究15
pp.366-375 | 2004. 12 |
| 4. 言語確認行動を頻発し,指示待ち行動を示した青年期自閉症者における自我の発達:自他関係の構造に注目して | 障害者問題研究34
pp.267-274 | 2007. 2 |
| 5. 激しい器物破壊行動を示した自閉症者に対する支援:対人関係の発達および衝動性の緩和に注目して
(赤木和重・北口美弥子) | 人間発達研究所紀要20・21
pp.92-102 | 2008. 10 |
| 6. 自閉症における「障害特性に応じた教育」再考:障害特性に応じつつ,障害特性をこえていく教育へ | 障害者問題研究36
pp.180-188 | 2008. 11 |
| 7. 障害研究における発達段階の意義:自閉症スペクトラム障害をめぐって | 発達心理学研究22
pp.381-390 | 2011. 12 |

8. 知的障害のある青年が大学生になることに関する一考察 :韓国ナザレ大学リハビリテーション自立学科の調査を通して
(近藤龍彰・柴川弘子・森本彩・赤木和重・津田英二) 神戸大学大学院人間発達環境学 2013. 9
研究科研究紀要7
pp.135-152
9. 対話型事例シナリオによる教員養成型PBL教育
(森脇健夫・山田康彦・根津知佳子・赤木和重・中西康雅・守山紗弥加・前原裕樹) 京都大学高等教育研究19 2013. 12
pp.13-24
10. 学生間の相互性に着目したインクルーシブ教育のケーススタディ:韓国ナザレ大学におけるドゥミ制度及び寄宿舎共同生活
(村田観弥・近藤龍彰・張主善・盛敏・柴川弘子・金鐘敏・赤木和重・津田英二) 神戸大学大学院人間発達環境学 2015. 9
研究科研究紀要9
pp.29-43
11. 教員養成型PBL教育における対話的事例シナリオ教育の評価方法の開発
(根津知佳子・山田康彦・森脇健夫・中西康雅・赤木和重・大日方真史・前原裕樹・大西宏明・守山紗弥加) 三重大学高等教育研究23 2017. 3
pp.69-79
12. 複式学級における教育可能性の再発見:授業づくり・インクルーシブ教育・自尊感情の視点から
(赤木和重・安藤友里・山本真帆・小淵隆司・戸田竜也) へき地教育研究72 2018. 1
pp.85-94
13. 特別支援学校教員を対象とした個別の指導計画に関する意識調査:作成上の悩みや困難に焦点をあてて
(赤木和重・大塚真由子) SNEジャーナル25 2019. 10
pp.162-175
14. 通常学級における個別支援を他児童はどのように捉えているのか:公正段階および親密度に着目して
(古村真帆・赤木和重) SNEジャーナル25 2019. 10
pp.83-101
15. 小学生は授業スタンダードをどのように捉えるのか:個人の権利意識の発達の観点から
(前岡良汰・赤木和重) 心理科学42(1) 2021. 6
pp.1-13
16. 障害のある子どもと即興的表現活動:教育的ユーモアとしての「よじれたノリ」 障害者問題研究49 2021. 11
pp.178-185
17. 軽度知的障害のある青年の障害受容:「ふつう」にこだわっていた青年は、なぜ「ふつう」にこだわらなくなったのか
(生田邦紘・赤木和重) 心理科学42(2) 2021. 12
pp.97-118
18. 特別支援学校教員を対象とした協調運動の困難な知的障害児の理解と支援に関する意識調査 SNEジャーナル28 2022.10
pp.148-161

(石井正幸・赤木和重)

19. 小学校教師は授業スタンダードを採用したいのか: 自校児童の授業スタンダードに対する調査結果を踏まえた検討
(前岡良汰・赤木和重) 心理科学43(2) 2022.12
pp.106-115
20. 知的障害青年の大学教育プログラムはなにをもたらしたか?: 教育専門職養成大学における3年間の実践を通して
(赤木和重・川地亜弥子・津田英二・河南 勝・佐藤知子・殿垣亮子・柴田真砂代・黒川陽司) 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要16 2023.3
pp.203-211

<査読なし論文>

1. TEACCH が見えていないものから見えてくる自閉症の理解と教育 みんなのねがい 469 2005.6
pp.16-19
2. 他者を通して学ぶ: ちびっこチンパンジー 科学76(12) 2006. 12
pp.1202-1203
3. 知的障害のある自閉症児・者における自己とコミュニケーションの発達と障害 日本の科学者41 2006. 2
pp.66-71
4. 知的障害のある青年期自閉症者における積極的教示行為の発達と障害: 行為主体としての自他分化に注目して 三重大学教育学部研究紀要59 2008. 3
pp.163-176
5. Toddler 期における自己の発達とニューロイメージング研究 ベビーサイエンス7 2008.3
pp.32-33
6. 幼児における抑制的教示行為の発達: 「教えないという教え方」は可能か 発達研究22 2008. 7
pp.107-115
7. 自閉症教育実践論の展開にむけて: その予備的な足場づくり 障害者教育科学57 2008. 7
pp.3-9
8. 「障害特性に応じた教育」とは何を意味するのか: 今泉 実践へのコメント 障害者教育科学57 2008. 7
pp.21-22
9. 自閉症児との信頼関係が生みだすもの、自閉症児との信頼関係をささえるもの: 井上実践へのコメント 障害者教育科学57 2008. 7
pp.29-30
10. 障害に向き合う主体として子どもを理解する: 和泉・渡辺実践へのコメント 障害者教育科学58 2009. 1
pp.16-18

11. 行動障害の強い自閉症児の理解と支援:石田実践へのコメント 障害者教育科学58 2009. 1
pp.29-31
12. 教える行動からみえてくる社会的知性:霊長類の比較発達心理学 発達118 2009. 4
pp.104-111
13. 小学校高学年における学級集団の形成過程:他者受容感を育てる子どもどうしの「支え合い」(赤木和重・坪田吉巨・松浦均) 三重大学教育学部紀要62 2011. 3
pp.235-256
14. Development of teaching behavior in typical developing children and children with autism spectrum disorder CARLS series of advanced study of logic and sensibility 5 2012. 3
pp.425-435
15. 名人芸実践を通してみえてくる自閉症児の発達研究・発達支援の課題(赤木和重・村上公也) 発達・療育研究(京都国際社会福祉センター紀要)28 2012. 12
pp.45-60
16. 自閉症児の社会性を育む:子どもと子どもの関係を支援する 子どもと発育発達10(4) 2013. 1
pp.235-239
17. 教員養成型 PBL 教育の研究(その 1):対話型シナリオの原理(森脇健夫・山田康彦・根津知佳子・中西康雅・赤木和重・守山紗弥加) 三重大学教育学部研究紀要64 2013. 3
pp.325-335
18. 子どもを見るということ,子どもが表現するということ(伊藤みどり論文へのコメント) 人間発達研究所紀要26 2013. 3
pp.46-51
19. 「心の理論」と教示行為:子どもに教えるのではなく子どもが教える 発達135 2013. 7
pp.54-59
20. 子どもの内面とどう向き合うか:障害名ではなく,一人の間として 北海道の寄宿舎教育研究28 2014. 5
pp.29-42
21. 教員養成型 PBL 教育の研究(その 2):対話型事例シナリオの作成と実践・『12 歳の絵本』を素材に(山田康彦・森脇健夫・根津知佳子・中西康雅・赤木和重・大日方真史・守山紗弥加・前原裕樹) 大学教育研究(三重大学授業研究交流誌)22 2014. 6
pp.45-54
22. 教職課程において,教師の権威・権力をどのように教えるのか:対話型事例シナリオの作成と実践・「23 分間の奇跡」を材にして(前原裕樹・山田康彦・森脇健夫・根津知佳子・中西康雅・大日方真史・赤木和重・守山紗弥加・大西宏明) 愛知大学教職課程研究年報4 2015. 3
pp.49-62

23. ヴィゴツキー障害学からみた知的障害児の発達と教育: 発達・療育研究(京都国際社会福祉センター紀要)31 2015. 12
すべては高次精神機能のために pp.3-14
24. 気になる子の理解と保育:創造の保育に向けて 発達149 2017. 1
pp.18-23
25. ユニバーサルデザインの授業づくり再考 教育853 2017. 2
pp.73-80
26. 個別支援を必要とする児童に対する同学級児童の意識 神戸大学大学院人間発達環境学 2017. 3
:他者からの受容感と授業場面に着目して 研究科紀要10
(山本真帆・赤木和重) pp.221-230
27. 特別支援教育:これまでの10年, これからの10年 発達障害研究39(1) 2017.4
(相澤雅文・奥住秀之・赤木和重・井澤信三・海津亜希子・田中敦士) pp.32-37
28. インクルーシブ教育を組みかえる 指導と評価758 2017. 6
pp.21-23
29. わが国のインクルーシブ教育の進展と排除 教育864 2018. 1
pp.67-73
30. インクルーシブ授業・クラスのためのはじめの一步:「違い」をとらえる・ひきだす・つなげる 授業づくりネットワーク29 2018. 2
pp.18-23
31. 新しい学びの文化に出会う シャンティつくば実践報告集2 2018. 12
pp.127-134
32. ゆれる正しさ,ほどける自閉症 発達161 2020. 1
(赤木和重・村上公也) pp.60-68
33. 発達障害のある子どもの安楽さを大事に:学童保育だからこそ 日本の学童ほいく542 2020. 10
pp.28-33
34. 即興の視点から考える発達障害のある子どもたちの学び 指導と評価68(1) 2022. 1
pp.54-55
35. 異年齢の視点から考える発達障害のある子どもたちの学び 指導と評価68(2) 2022. 2
pp.56-57
36. コロナ感染拡大下における放課後等デイサービス職員 明治安田生命研究助成論文集56 2022.11

のストレス状況 pp.28-37.
(赤木和重・古村真帆・瀬川千裕・川地亜弥子・木下孝司)

37. 指導に悩む子どもとどう楽しむか:子どもにノッて,自分を 教育927 2023.4
ネタに pp.5-11.

Ⅲ. 訳書

1. 乳幼児期の自閉症スペクトラム障害:診断・アセスメント・ クリエイトかもがわ 2010.9
療育 pp.108-140
(竹内謙彰・荒木穂積 監訳)
「コミュニケーションの発達とアセスメント」
(Chawarska, K., Klin, A., & Volkmar, F. R.(Eds.) (2008) Autism
spectrum disorders in infants and toddlers; Diagnosis, assessment,
and treatment. The Guilford Press.)
2. 青年期発達百科事典 第1巻 丸善出版 2014. 4
(子安増生・二宮克美 監訳) pp.310-321
「知的障害」
(Brown, B. B. & Prinstein, M. J. (Eds.)(2011) Encyclopedia of
Adolescence. Elsevier.)

Ⅳ. その他

<事典項目>

1. 特別支援教育大事典 旬報社 2010.3
(茂木俊彦 編集代表) p.63, p.126, p.323, pp.318-319
「応用行動分析」「間主観性」「自制心」「自己肯定感」
2. 教育評価重要用語事典 明治図書 2021.2
(西岡加名恵・石井英真 編) p.71
「多重知能理論」

<エッセイなど>

1. 発達障害のある子どもにこそ,一緒に楽しく夢中になれ めえのようちえん75 2009. 1
る時間を:幼児期の特別支援教育において大事にしたい pp.2-3
こと
2. 目からウロコ! 障害児の発達を学ぶ(第1回~第12回連 みんなのねがい571~582 2014. 4
載) ~2015.3

3. 目覚まし時計:未来を共有する魔法の道具	みんなのねがい578 p.23	2014. 11
4. アメリカあたふた珍道中(第1回 ~第15回連載)	はあとブリッジ343~357	2015. 6 ~2016.8
5. アメリカの教室に入ってみる(第1回~第5回連載)	人間発達研究所通信31(1)~ 32(1)	2015. 6
6. ペン先, コミュニケーション, 創造的表現	Live with Drawing2015:描き合うこ と,描き続けること pp.58-60	2015. 10
7. 強みをいかす...だけでなく	はあとブリッジ360 p.1	2016. 8
8. アメリカの学校で見た「違い」の認め方(自著を語る:『アメリカの教室に入ってみた』)	週刊教育資料1425 p.35	2016. 11
9. 「気になる子」と言わない保育・教育:素敵な実践から学ぶ	東社協保育部会「通信」362 pp.5-9	2017. 3
10. ユニバーサルデザインに基づく授業づくり:注目される背景とその問題点	みんなのねがい612 p.29	2017. 4
11. 人間はどこから壊れていくか?	はあとブリッジ367 p.1	2017. 6
12. 「気になる子」の理解と育ちあう保育	保育と実践(常葉短期大学部保育 研究会)13 pp.1-16	2018. 3
13. 中年の涙腺	はあとブリッジ377 p.1	2018. 3
14. 子どものけんかっすごい:発達の理解と対応	日本の学童ほいく519 pp.10-15	2018. 4
15. 子育てのノロイを解きほぐす(第1回~第12回連載)	Web日本評論	2018. 11 ~2019. 7
16. 「青春の謳歌」を支える大学の学び	神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログ ラム(2019年度文部科学省委託事 業「障害者の多様な学習活動を	2020. 3

	総合的に支援するための実践研究」報告書) pp.147-149	
17. 風越の教室に入ってみた(第1回～第14回連載)	軽井沢風越学園HP	2020. 5 ～2023.3
18. 米国のインクルーシブ教育(第1回～第3回連載)	教育新聞	2020. 6 ～2020.8
19. 離れながら, つながる:だるまさんがディスタンス	はあとブリッジ407 p.1	2020. 9
20. 学びを「感染」させる場としてのKUPI	神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム(2020年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」報告書) pp.121-122	2021. 3
21. 「自分の席は,1つしかない」のだろうか?	はあとブリッジ417 p.1	2021. 6
22. 子育てのノロイをほぐすーもう1つの「モノサシ」を意識してみる	ちいさいなかま714 pp.36-43	2021. 8
23. 知的障害のある青年に対する大学での授業実践報告ー「共同お悩み相談」の授業を通してー	はあとブリッジ420 p.3	2021. 10
24. 短所♡	はあとブリッジ422 p.1	2021. 11
25. おわりにー表現を通して,ひとはやさしく,かしこく,おもしろくなっていくー	神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム(2021年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」報告書) pp.153-155	2022. 3
26. やわらかキョウイクアタマ 連載(第1回～第14回)	教職研修596～603	2022. 4 ～2023. 5
27. 自閉症教育における支援プログラムとの「ほどよい」つきあ	みんなのねがい676	2022. 4

いかた	pp.15-17	
28. イタリアの教室に入ってみた 連載(第1回～第4回)	はあとブリッジ435～436	2023. 1 ～2023.4
29. インクルーシブ体育のハードルを下げよう	体育科教育71(2) p.9	2023. 2
30. おわりに一円熟しつつ, 創造するKUPI	神戸大学・学ぶ楽しみ発見プロ ラム(2021年度文部科学省委託事 業「障害者の多様な学習活動を 総合的に支援するための実践研 究」報告書) p.113-114	2023. 3

<学会ニューズレター>

1. 発達障害を通して考える「発達,障害,教育」	日本発達心理学会ニューズレタ ー73 pp.4-5	2014. 10
2. 発達研究の多様化?それとも分断?	日本発達心理学会ニューズレタ ー88 pp.1-2	2019. 10
3. 格差というより段差:アメリカの公教育	心科研ニュース, 46(3) p.10	2015. 12

<書評>

1. 書評:ザゾ著『鏡の心理学』	人間発達研究所紀要15 pp.158-162	2002. 3
2. 自閉症実践の出発点は共感にある 書評:三木裕和ほか著『自閉症児のココロ』	障害者教育科学56 pp.79-80	2008. 1
3. 自閉症教育に異彩を放つ 書評:『自閉症スペクトラム障害の子どもへの発達援助と 学級づくり』	教育805 pp.120-121	2013. 2
4. 最先端の自閉症スペクトラム障害研究から見えてくるいく つかの疑問 書評:『社会脳の発達』	児童心理学の進歩53 pp.284-288	2014. 6

- | | | |
|--|---------------------------|----------|
| 5. 書評:『崩壊するアメリカの公教育』 | 新英語教育581
p.45 | 2018. 1 |
| 6. 身体や心を「わがもの」にするには
書評:『限界を超える子どもたち』 | 教職研修558
p.112 | 2019. 2 |
| 7. 書評:『教える・学ぶ:教育には何ができるか シリーズ子ども
もの貧困3』 | 授業づくりネットワーク33
p.119 | 2019. 7 |
| 8. 書評:『インクルーシブ授業の国際比較研究』 | SNEジャーナル25
pp.201-204 | 2019. 10 |
| 9. 書評:『アメリカの学習障害児教育』 | SNEジャーナル27
pp.169-172 | 2021. 10 |
| 10. 書評:『発達障害等を有する非行少年と発達支援の研究』 | SNEジャーナル28
pp.162-166. | 2022.10 |

V. 学会での口頭発表等(直近5年間)

- | | | |
|---|--|---------|
| 1. Improvisation comedy among persons with/without disabilities | Play, Perform, Learn, Grow:
Exploring Creative Community
Practice 2018 | 2018. 4 |
| 2. 障害児の遊びと創造性
(自主シンポジウム:障害児の遊びにおけるノリと即興性:心科研編
『僕たちだって遊びたい』のインスピレーションを出発点として 話題
提供) | 心理科学研究会
春の全国集会 | 2018. 4 |
| 3. 不確実さを支える発達論
(自主シンポジウム「インクルーシブ保育における対話を等:不確実
性への耐性とユーモア・ファンタジー」指定討論) | 日本保育学会
第71回大会 | 2018. 5 |
| 4. 保育者と子ども集団の発達モデルの提唱:0歳児から3歳
児を中心に
(<u>赤木和重</u> ・岡村由紀子・金子明子) | 日本保育学会
第71回大会 | 2018. 5 |
| 5. 事例シナリオを用いた教員養成型PBL教育の到達点と課
題
(森脇健夫・山田康彦・中西康雅・大日方真史・守山紗弥加・ <u>赤木和
重</u> ・根津知佳子・前原裕樹・守山紗弥加・大西宏明) | 大学教育研究フォーラム
第25回 | 2019. 3 |
| 6. 5歳児の話し合い場面に見る就学前の育ち:合意形成能
力に注目して
(岡村由紀子・金子明子・ <u>赤木和重</u>) | 第10回幼児教育実践学会 | 2019. 8 |

- | | | | |
|-----|--|--------------------------------|----------|
| 7. | 「学びほぐしunlearn」で自分が変わる
(自主シンポジウム:当事者から「青年期の学び」の意義を考えるⅢ:
高次脳機能障害の青年の事例から 指定討論) | 日本特殊教育学会
第57回大会 | 2019. 9 |
| 8. | ことばを/つくって/ひねって/さかのぼる～特別支援教育
における「深い」学びとは?～
(自主シンポジウム 企画・司会) | 日本特殊教育学会
第57回大会 | 2019. 9 |
| 9. | インクルーシブ時代の「転籍」に関する定量研究:小学校
通常学級在籍児童の「転籍率」の定義と算出方法の提案
(呉文慧・郭旭坤・金丸彰寿・挽本優・前岡良汰・大塚真由子・ <u>赤木和重</u>) | 日本特殊教育学会
第57回大会 | 2019. 9 |
| 10. | インクルーシブ時代の「転籍」に関する定量研究(2):
1968-2018年における小学校通常学級在籍児童の「転籍
率」の歴史的変遷
(金丸彰寿・呉文慧・郭旭坤・挽本優・前岡良汰・大塚真由子・ <u>赤木和重</u>) | 日本特殊教育学会
第57回大会 | 2019. 9 |
| 11. | 小学校時期における「転籍」に関する定量研究(3):1968-
2013年における小学校通常学級の「在籍率」の推移
(<u>赤木和重</u> ・郭旭坤・挽本優・前岡良汰・呉文慧・金丸彰寿・大塚真
由子) | 日本特殊教育学会
第57回大会 | 2019. 9 |
| 12. | 特別支援学校教員を対象とした個別の指導計画に関す
る意識調査:作成上の悩みや困難に焦点をあてて
(<u>赤木和重</u> ・大塚真由子) | 日本特別ニーズ教育学会
第25回研究大会 | 2019. 10 |
| 13. | 通常学級における個別支援を他児童はどのように捉えて
いるのかー公正段階および親密度に着目してー
(古村真帆・ <u>赤木和重</u>) | 日本特別ニーズ教育学会
第25回研究大会 | 2019. 10 |
| 14. | 知的障害青年の20歳前後の人格形成を考える:福祉型
専攻科に学ぶ学生(利用者)の事例検討を通して(自主シン
ポジウム 指定討論) | 日本特殊教育学会
第58回大会 | 2020. 9 |
| 15. | 小学校は授業スタンダードをどのように捉えるのか:個人
の権利意識の発達の観点から
(前岡良汰・ <u>赤木和重</u>) | 日本特別ニーズ教育学会
第26回研究大会(Web大会) | 2020. 10 |
| 16. | 軽度知的障害のある青年の障害受容:「ふつう」にこだわ
っていた青年は、なぜ「ふつう」にこだわらなくなったのか
(生田邦紘・ <u>赤木和重</u>) | 日本発達心理学会
第32回大会 | 2021. 3 |

- | | | |
|--|--------------------------------|----------|
| 17. 「居る」と「できる」の悩ましい関係
(自主シンポジウム:小学生が居場所をもてるようになるためにどのような関わりが必要なのか 指定討論) | 日本教育心理学会
第63回総会 | 2021. 8 |
| 18. 第3の実践としての逆SST
(自主シンポジウム:逆SSTの可能性:新しい支援のための対話的当事者理解の試み 指定討論) | 日本教育心理学会
第63回総会 | 2021. 8 |
| 19. 異年齢混在在籍児における心理発達の縦断調査(1):
自尊感情,学習コンピテンス,協同学習に対する動機づけ
に注目して
(赤木和重・古村真帆・岩瀬直樹) | 日本教育心理学会第63回総会発
表論文集 | 2021. 8 |
| 20. 大学における履修証明制度を活用した知的障害青年の
学び
(自主シンポジウム:大学における知的障害青年の学びと課題 話
題提供) | 日本特殊教育学会
第59回大会 | 2021. 9 |
| 21. 特別支援学校教員を対象とした協調運動が苦手な知的
障害児の理解と支援に関する意識調査:教員の専門性に
注目して
(石井正幸・赤木和重) | 日本特別ニーズ教育学会
第27回研究大会(オンライン) | 2021. 10 |
| 22. 特別支援学校の教師は,軽度知的障害のある青年の「障
害受容」をどのように捉えているか?
(生田邦紘・赤木和重) | 日本質的心理学会
第18回大会 | 2021. 10 |
| 23. Let's talk about our practice of developmental support:
The cultural comparison of humor in Britain and Japan | 日本発達心理学会
第33回大会・プレワークショップ | 2022. 2 |
| 24. 小学生における自尊感情の発達的变化—社会的比較・
継時的比較に着目して—
(笠谷友里・赤木和重) | 日本発達心理学会
第33回大会 | 2022. 3 |
| 25. 「多様性の教育学」構築に向けた対話と研究のインクルー
ジョン:特別支援教育の視点 | 異文化間教育学会
第30回研修会 | 2022. 3 |
| 26. 中学部以降の不器用な知的障害児への運動介入効果に
ついて:特別支援学校中学部生徒のサーキットトレーニング
を通じた協調運動の変化に着目して
(石井正幸・赤木和重) | 日本特殊教育学会
第60回大会 | 2022. 9 |
| 27. 特別支援学校教師は,軽度知的障害のある青年の障害
受容をどのように捉えているか
(生田邦紘・赤木和重) | 日本特殊教育学会
第60回大会 | 2022. 9 |

28. 教師と子どもから見た授業スタンダード: 定量的研究の知見から(ラウンドテーブル 企画・司会) 日本教育方法学会 第58回大会 2022. 10
29. インクルーシブな場と障害児の学習権: 特別支援学級・学校の在籍率の視点から(話題提供) 教育目標・評価学会 2022.12
30. 今、日本の特別支援教育で何が起きているか? : 国連の障害者権利委員会による日本の「障害児を分離している現状の特別支援教育」への要請から考える(話題提供) 日本発達心理学会第34回大会 2023.3
31. 現代社会において他者とつながることとは? 広がりをもつ自己について考える(指定討論) 日本発達心理学会第34回大会 2023.3
32. 対人援助専門職養成に寄与する PBL 対話的事例シナリオ教育の探究—非認知能力に着目して—(指定討論) 第29回大学教育研究フォーラム 2023.3
33. 発達と対話 —インクルーシブ保育・教育の包摂戦略と発達(話題提供) 日本保育学会第76回大会 2023.5